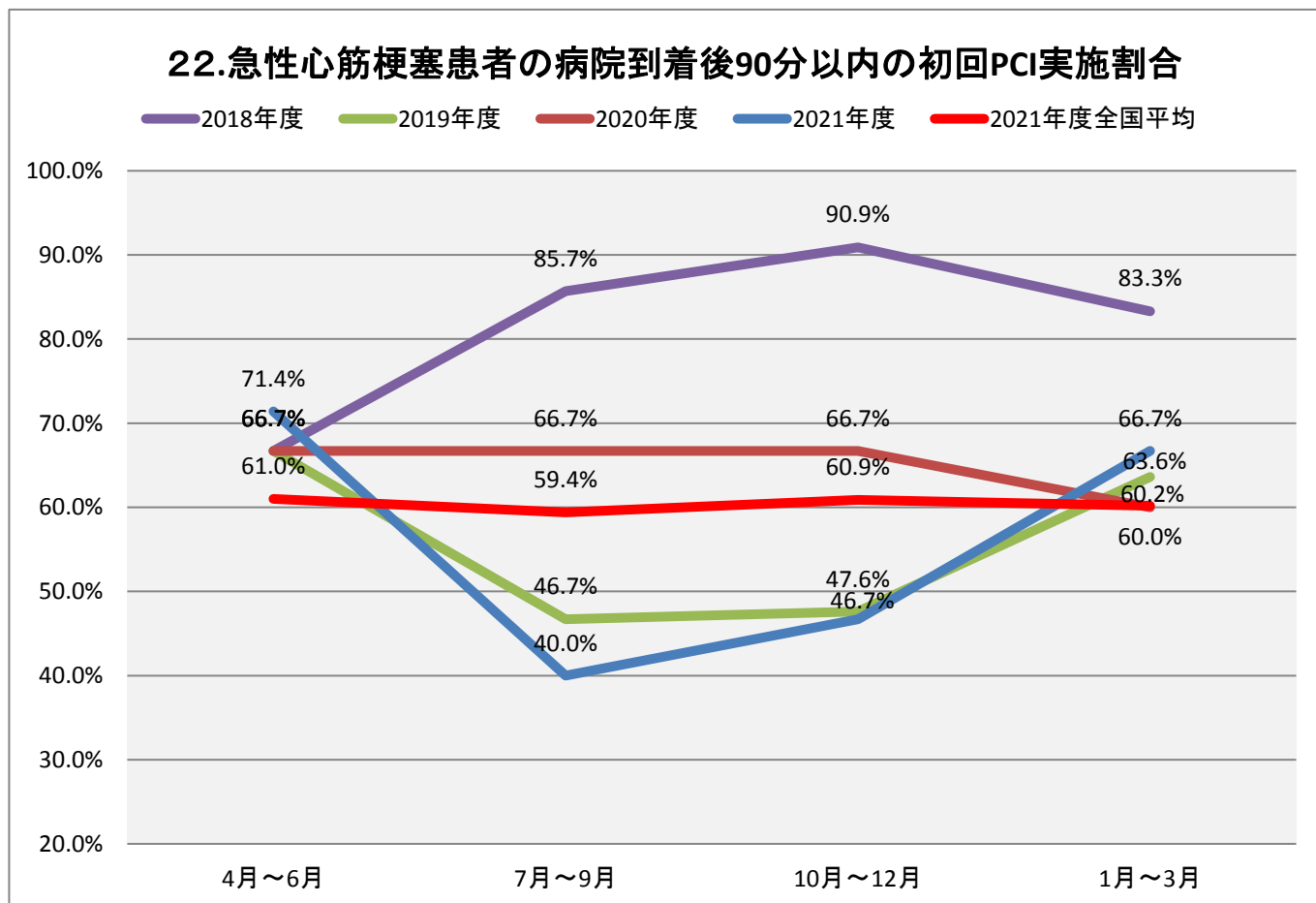


22.急性心筋梗塞患者の病院到着後90分以内の初回PCI実施割合

(1)調査結果



調査期間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
2021年度	71.4%	40.0%	46.7%	66.7%
2020年度	66.7%	66.7%	66.7%	60.0%
2019年度	66.7%	46.7%	47.6%	63.6%
2018年度	66.7%	85.7%	90.9%	83.3%
2021年度全国平均	61.0%	59.4%	60.9%	60.2%

(2)指標の説明

急性心筋梗塞の治療には、発症後可能な限り早期に再灌流療法を行うことが、生命予後の改善に重要です。現在、発症後12時間以内は早期再灌流療法の適応とされ、主にバルーンやステントを使用したPCIが行われます。また、血栓吸引療法を併用する場合があります。病院到着(door)からPCI(balloon)までの時間は、急性心筋梗塞と診断されてから、緊急心臓カテーテル検査と治療のためのスタッフならびにカテーテル室の準備、さらにPCIの手技までを含む複合的な時間であり、door-to-balloon時間と呼ばれます。具体的にはdoor-to-balloon時間が90分以内であること、あるいは90分以内に再灌流療法が施行された患者の割合が50%以上という指標が用いられます。

(3)定義

分子: 分母のうち、来院後90分以内に手技を受けた患者数
分母: 18歳以上の急性心筋梗塞でPCIを受けた患者数